

長野県文化芸術情報発信サイト「CULTURENAGANO」
『頑張るアーティスト応援事業』ムービー紹介サイト



2020.11.05

アーティストは未来を見つめる『頑張るアーティスト応援事業』 Part2

このたびの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、県内でも多くの音楽や演劇の公演、美術展示などの文化イベントが感染拡大防止のために中止・延期となりました。これを受け、長野県では「頑張るアーティスト応援事業」を通して、発表の機会を失ったアーティストや団体の支援に取り組んでいます。密閉、密集、密接の「3密」を避け、感染防止対策を講じた創作活動による、オンラインで鑑賞可能な作品を募集しました。「CULTURE.NAGANO」内の特設サイト「ARTS CHANNEL」では、次々とその活動成果である映像作品が公開されています。長野県ゆかりのアーティストが今この時期に創造したバラエティに富んだ作品たちから、皆さんも、さまざまな思いを受け取ってくださったことでしょう。

さて、特集Part2では「頑張るアーティスト応援事業」に採択されたアーティストから、画家の越ちひろさん（千曲市）、和太鼓奏者の佐藤健作さん（長野市）に、このコロナ禍による影響や変化、「頑張るアーティスト応援事業」での創作に込めた想い、さらにはこれから活動の展望などを伺いました。

佐藤健作

『天心 TENSHIN – The Center of the Sky』テーマ型



佐藤健作さん

県の事業で表現する場をいただいた喜びが、作品を見てくださる方の力に変わる連鎖を起こしたい

戸隠の自然の中を車で走っていくと、高い木々に囲まれた、和太鼓奏者・佐藤健作さんの稽古場「是色館」があります。静かに陽光が差しこみ、奔放に風が吹き抜けるかつて旅館の体育館だった木造の建物の中には、個人所有としては世界最大級の和太鼓「不二」が鎮座していました。

国内外で活躍する佐藤さんは、東京を拠点にしていましたが、太鼓や道具の保管、稽古で出る音に気を遣うことなく、大太鼓と日常的に向き合える空間を探すうち、ここ戸隠にたどり着いたのです。以来15年、住まいも善光寺界隈に移し、毎日ここ是色館にやってきては4時間ほど一人になって修練を積んでいます。

私たちを満面の笑顔で迎えてくださった佐藤さんは、あいさつもそこそこに「まずは聞いてください」と『頑張るアーティスト応援事業』のために製作した映像作品『天心 TENSHIN – The Center of the Sky』のラストに流れるタイトル曲を演奏してくださいました。不二の威厳ある音が振動し、空気や床を伝って私たちの身体の深部に響き渡ってくるよう。



佐藤健作さん

すると「打ってみませんか」と佐藤さんはバチを手渡してくださいました。直径が4尺3寸、163センチの不二の打面を力強く打ったスタッフが「横綱に向かっているよう」と表現しましたが、まさに。そびえたつような佇まいもさることながら、懐の深さに圧倒されるような気持ちになりました。

コロナ禍でもいつもどおり 自分を見つめるために稽古場へ通った



エдинバラにて



高千穂神社奉納

サッカーワールドカップ・フランス大会閉会式での演奏(1998年)、和太鼓界初の文化庁芸術祭新人賞受賞(2008年)、東日本大震災被災地無料公演「不二プロジェクト」(2011~2014年)、世界最大の芸術祭エディンバラフェスティバル・フリンジでのソロ公演(2016、17年)、イギリス国営放送BBCのラジオ番組「GLOBAL BEATS(グローバルビーツ)」にて世界で活躍する7組の音楽家の一人としてソロ演奏(2016年)など、バラエティに富んだ輝かしいキャリアを誇る佐藤さん。国内公演では、ミュージシャンよりダンサーなど身体表現を重視する表現者と数多く共演しています。

このコロナ禍では、7月~8月に女優の真矢ミキさんらと共に演した『ドラマティック古事記2020 ~神々の愛の物語~』、8月にパリオペラ座契約団員のバレエダンサー・二山治雄さん(松本市出身)らと共に演した『SHIVER』で国内をツアしました。しかし実は今後のスケジュールの方が予断を許さない状態なのだろう。



国際的に活躍するダンサーと共に演した『SHIVER』



『SHIVER』の終演後に共演者たちと(前列左が二山さん)

佐藤さん

「コロナ禍で、出演予定だったオリンピック関連の事業が中止、東京での太鼓教室も中止になりました。『ドラマティック古事記』はなんとか実現しましたが、やれるぞと決まったのが本番の1ヶ月前だったので皆さん大慌てでした。東京はスタジオが閉鎖され、稽古場の確保さえ大変な状況だったんです。第2波が来ていたので、検査など万全の体制をとりましたが、本番の幕が開くまではヒヤヒヤでしたね。妻が講師をしている都内の予備校も閉鎖になり、一時は収入がまったくありませんでした。ただ経済的な事情はあるにしても、僕はいつもどおり自分を見つめるためにこの稽古場で過ごしていました」

そんな時期にスタートした『頑張るアーティスト応援事業』は「ありがたかった」と佐藤さんは言います。

**彼らの活動はいつも戸隠から始まる
そんな戸隠に彼らが感じている魅力を表現**

佐藤さん

「是色館は3密になってしませんし、稽古するための環境には困らないんです。でもコロナ禍では外部と

接触する機会がどんどん失われてしまいましたから、『頑張るアーティスト応援事業』によっていつも一緒にやっているスタッフたちと創作ができる場をいただけたのは本当にうれしかったですね。撮影は2日間で一気に行いました。いざ撮影が始まると、ああでもないこうでもないとアイデアが膨らむんですよ。楽しくつくって、でき上がった作品が今度は見てくださった方の力になっていくという連鎖が起きれば、それが何よりうれしいことです」



鏡池をバックに(『天心』)



戸隠神社中社にて(『天心』)

『天心 TENSHIN – The Center of the Sky』のコンセプトは「太陽を取り戻そう、人びとの力を取り戻そう」(佐藤さん)。「地」「水」「火」「風」「空」のキーワードに合わせて戸隠神社の境内や参道並木で、しぶき飛び散る滝の前で、戸隠の山々が水面に写る鏡池で、佐藤さんの汗が染み込んだ是色館でと曲ごとに場所を変え、太鼓を変え、縦・横・斜めに、搗(つ)く、擦(こす)ると打ち方を変え、佐藤さんは和太鼓を演奏し続けました。完成した映像からは、佐藤さんの姿や精神性、さまざまな和太鼓の響き、紹介される戸隠の美しさが相まって深遠な空気を漂わせています。

佐藤さん

「譜面に書けば同じリズムですが、出てくるもの、感じていただけるものは和太鼓の種類、打ち方で違ってくるんです。それが和太鼓ならではの面白さ。そして僕らはいつもこの地で稽古して、すべてがここから始まる。パワースポットとして名を馳せている戸隠ですが、僕らなりに感じている美しさ、この地に宿る力を紹介したかったんです。生きること、文化芸術だけでなく、観光という切り口においても心が動くことが大事なので、『天心』がそのきっかけになりうるとしたらすごくうれしいですね」



戸隠神社の参道並木にて(『天心』)

スタッフと是色館で準備(『天心』)

和太鼓は自分の中に生まれた衝動を受け止めてくれる鏡

内面に向き合いながら自分にしかできない表現を探求する自身のことを「異端児」と語る佐藤さんですが、現時点でのこの度の新型コロナウイルスの影響をどのように捉えているのでしょうか。

佐藤さん

「新型コロナウイルスは世界のいろんなことを浮き彫りにしたという意味で本当に歴史に残ると思います。世界中どこにも逃げ場がないわけですから。そうなると自分を見つめるしかない。“生きるとはどうしたことなんだろう”と本気で考えるという意味では、僕はこの状況をプラスに捉えてもいいと思うんです。なぜならば生きていることを実感できるから」

佐藤さんは“整える”“整う”という言葉をよく使います。太鼓を単にリズムとして奏でるのではなく、心と身体に対峙し、総合的に自分自身を鍛えていく実践そのものが、佐藤さんが考える、太鼓に取り組むということなのでしょう。



佐藤健作さん

佐藤さん

「僕にとって和太鼓は打つもの、貫くもの、魂を打ち抜くもの。そして不二は稽古をつけてくれる存在で、対

戦相手でもある。さきほどおっしゃってくださった、まさに横綱です。そして強い横綱を求めるうちにこのサイズになったのかもしれません。不二を前にすると小手先ではどうにもならなくなりますから。和太鼓は自分の中に生まれた衝動を受け止めてくれる鏡。爆発させることとコントロールすること、その両輪で可能性を開いていき、一つ形(曲)にする。言わば僕の表現はその連続。それを僕は“響き”と言っているんです。脈動なんです。そうやってひたすら自分と向き合うために打つことが、逆に外とのつながりを広げてくれる。一生精進するだけの価値があるものだと思いますし、僕は達人になりたいですね」

そう語る佐藤さんは、まだ太鼓を始めてまもないころ、あるお祭りで演奏したときの、エネルギーが無限に湧き続けていくらでも打てるような不思議な感覚を、今もずっと追い続けているのだと言います。

佐藤さん

「僕は宮崎県高千穂町の高千穂神社で何度か和太鼓の奉納をさせていただいているんですけど、その町には天照大御神(アマテラスオオミカミ)が隠れた天岩戸として祀られる場所があって。天手力男神(アメノタヂカラオノカミ)が岩戸を塞いでいた岩を放り投げて飛んでいった先が戸隠なんです。だからこの地に出会って驚いたんです」

何かの縁に導かれるように戸隠を訪れて、「是色館」という稽古場を定めた佐藤さん。どうやらその活動を支えるのに、戸隠というパワーを秘めた地はとても重要な役割を果たしているようです。そして佐藤さんは今日も一人、不二をはじめとする和太鼓たちを通して自らに向き合っています。

天心 TENSHIN – The Center of the Sky

信州の靈地・戸隠。和太鼓奏者・佐藤健作が、稽古場を構えるこの地で、和太鼓の響きを奉納しました。奥社・中社など戸隠五社での演奏。そして、個人所有の和太鼓として世界最大級の大太鼓「不二(ふじ)」による、響きの宇宙をお届けします。

